

2024年6月26日

<オリンパス ニュースレター>

7月14日（ナ・イ・シ）は内視鏡の日 オリンパスが意識調査実施

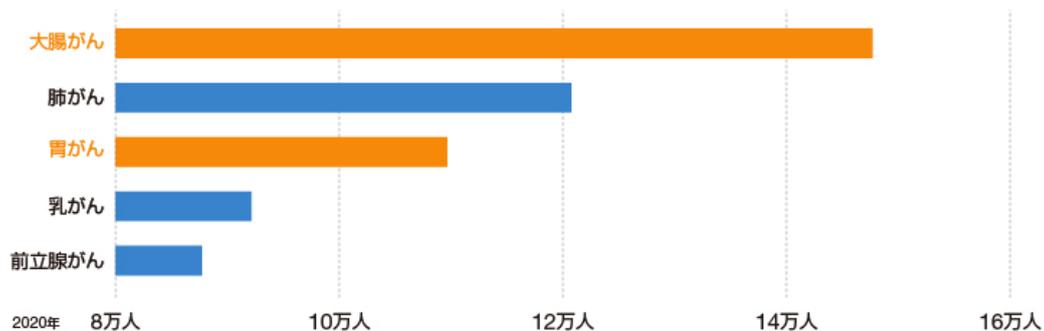
胃がん・大腸がん 早期発見・治療で治る割合は？ 7割が誤解？

オリンパスは、全国の40～60代 合計14,100人を対象に、がん検診や内視鏡検査に関する意識調査を実施し、その実態と課題を意識調査白書として公開します。（7月10日公開予定 医学監修：国立がん研究センター中央病院 検診センター長 小林望先生）。公開にさきがけ、3回に分けて意識調査のトピックスを、小林先生に解説いただきます。1回目の今回は胃がん・大腸がんの早期発見・早期治療の大切さについてです。

・日本人のがん罹患（りかん）数第1位は大腸がん。胃がんは第3位。

日本人で一番罹患率が高いがんは、実は「大腸がん」です。男性約8.3万人、女性約6.5万人、年間で約15万人が大腸がんと診断されています。また、大腸がんと同じく内視鏡で検査ができる「胃がん」に関しては男性約7.5万人、女性約3.5万人、年間約11万人の方が罹患しており、日本で3位となっております。それぞれ、40歳を超えたあたりから増え始めるがんです。

<1年間でがんと診断された人の数（部位別）>



出典：「全国がん登録 罹患数・率 報告 2020」（厚生労働省）をもとにオリンパス株式会社作成

・胃がん・大腸がん早期発見・早期治療で治る率は90%以上。しかし認識率は3割未満。

胃がん・大腸がんは、早期のうちに発見し、治療をすれば、治る可能性がとても高く、治癒率は98%以上*1です。しかし意識調査の結果、このことを認識しているのは3割未満にとどまりました（治癒率90%未満と回答した人が7割以上）。また、治癒率60%未満というように実態と乖離した認識をしている人も約3割という結果に。早期発見・治療によるメリットは、未だ多くの方に認識されていない実態が明らかになりました。

1：全国がんセンター協議会 全がん協部位別臨床病期別5年相対生存率（2011-2013年診断症例）による

■ **早期がんは症状がないことが多い。**

早期発見・早期治療をすればほとんどの方が治る胃がんと大腸がん。しかし、がんのステージが進むにつれ、治る確率は大きく低下します。大腸がんはステージ 4 になると治癒率は約 23%、胃がんに関しては約 6%まで低下。そのため、早期の段階で見つけることがとても重要になります。しかし、胃がんや大腸がんの問題なのは、多くのケースで「早期がんの段階では自覚症状がない」ということです。そのため、40 歳を超えてからは、自覚症状がなくてもこれらのがんに意識を向けておくことが大切になります。

■ **検診は、症状が無い人が受けるもの。既に症状が続いている方は、医療機関受診を。**

胃と大腸の早期がんは自覚症状が無いことがほとんど。したがって、早期発見のための胃がん検診・大腸がん検診は「症状のない人が受けるもの」なのです。検診対象世代*1 で症状の無い方は、検診を受けるようにしましょう。逆に症状*2 が既に続いている方は、なんらかの病気が進行している可能性を否定できません。検診を待たず、早めに医療機関を受診するようにしてください。

1：胃がん:50 歳以上（当分の間、胃部エックス線検査については 40 歳以上に対し実施可）、大腸がん:40 歳以上。

2：大腸がんにて代表される症状：黒い便や血便など便の異変、貧血、便秘・下痢、便が細くなる・残便感など。

胃がんにて代表される症状：胃痛・不快感・違和感、胸やけ、吐き気、食欲不振など。

■ **初期症状の 1 つ「黒い便や血便などの便の異変」が続いても受診するのは 40%未滿。**

がんの早期発見を目的とするがん検診は症状がない方が対象ですが、既に症状が続く方は早めに医療機関を受診する必要があります。しかし、胃がん・大腸がんの代表的な症状は、日常生活でもそれほど珍しくない症状（胃痛、腹痛、便秘や下痢など）も多いため、症状があっても医療機関を受診しない方が多くみられました。また胃がん・大腸がん共通の初期症状である「黒い便や血便などの便の異変」が続いても医療機関を受診する割合は 40%未滿に留まりました。

< 2022 年から 2023 年の 2 年間で、繰り返したり、続くことがあった症状 と 医療機関受診割合 >

40～60 代全体 (N=14,100)

症状内容		出現率	「症状あり」の回答者のうち、各症状での医療機関受診割合 (%)
胃がん初期症状	胃痛や胃のあたりの不快感や違和感	21.7%	34.1
	胸やけ	13.8%	24.6
	吐き気	9.1%	24.2
	食欲不振	7.6%	22.4
共通	腹痛	15.8%	18.4
	黒い便や血便など便の異変	4.1%	36.6
	ダイエット以外の不自然な体重減少	3.6%	27.8
大腸がん初期症状	便秘や下痢が頻繁に起こる	18.6%	20.4
	便が細くなったり残便感を感じる	13.6%	14.0
	貧血による立ちくらみやめまいや頭痛	12.6%	22.2

※各初期症状／共通のグループ内において出現率を基準に降順

▪ 「要精密検査」と判定されたら必ず精密検査受診を

検診を受けて要精密検査になったにもかかわらず、“自覚症状がないから”という理由で精密検査を受けない方が居ます。しかし前述の通り、早期の大腸がんや胃がんには症状がないことがほとんどですので、必ず精密検査を受けることが必要です。なお、精密検査（内視鏡検査）については保険の対象となります。早めに医療機関を受診するようにしてください。

< 本件に関するお問い合わせ先 >

- 報道関係の方：オリンパス株式会社 コミュニケーションズ 湯浅
TEL：070-3923-6064 メールアドレス：Global-Public_Relations@olympus.com
- ホームページ：<https://www.olympus.co.jp/>